

トラブルを未然に防ぐヒント、 トラブル拡大を食い止めるコツが満載！

他人事ではない！
本書の54 ケース
たとえば……

- 向精神薬服用により咬合に変化が生じた
- 患者が肺結核に罹患していた
- 矯正治療後、多数歯に脱灰を認めた
- 急速な歯の移動にともない歯髄の失活が生じた
- 矯正治療により上顎前歯に歯根吸収を認めた
- 矯正治療中に顎関節症が生じた
- 下顎智歯の抜歯をしておらず、手術が延期された
- 歯科矯正用アンカースクリュー埋入により歯根破折した
- 海外からの転院で、治療費の減額を要求された

など

Orthodontic Treatment

これで解決！

矯正トラブル

マウスピース型矯正、MTM、再治療等の“困った”事例に学ぶ予防と対処法

編著
末石研二
野嶋邦彦
片田英憲

著
岩田直晃
小坂竜也
末石倫大
西井 康
根津 崇
福本恵吾



QUINTESSENCE PUBLISHING

クインテッセンス出版株式会社

[編著]

末石研二 / 野嶋邦彦 / 片田英憲

[著]

岩田直晃 / 小坂竜也 / 末石倫大
西井 康 / 根津 崇 / 福本恵吾

注意すべき典型例から想定外のものまで、54の矯正トラブル事例を収載。1ケースにつき2ページ程度で、「トラブル予防法」「トラブル後の望ましい対応」を、裏付けとともに多数の写真でわかりやすく解説。また、医療者を守るための記録の付け方や、裁判例に学ぶトラブル予防のヒントなど、弁護士からの実用的なアドバイスもあり。マウスピース型矯正から本格矯正、外科的矯正治療まで、あらゆる矯正歯科臨床必携の1冊。



防げるはずのトラブルを招かないために、本書をお役立てください。

どんなトラブルが現場で起きるのかわかるだけでも予防線がはれます！

chapter 4 歯および歯周組織の問題症例に学ぶ

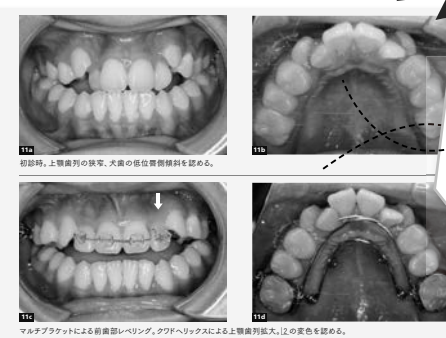
31 急速な歯の移動にもない歯髄の失活が生じた

解説：小坂竜也

●ケース情報
患者 12歳、男性
主訴 受け口、八重歯を改善したい
診断および治療経過 骨格性の下顎前突傾向をともなう上顎歯列狭窄による蓋生圧例と診断。思春期性成長前に前歯被蓋の改善を目指し、クワドヘリックスによる歯列の前方向拡大ならびに前歯部マルチブラケット装置による配列を計画。
①問題発生状況 拡大治療を開始3ヵ月後、2.1.1.2にマルチブラケットを装着。その2ヵ月後、保護者より歯髄失活の報告があった。

変色が気になるなどの指摘があり、かかりつけ歯科医を受診。患者本人はとくに自覚症状を認めなかったが、一般歯科医による診断の結果、抜歯が必要となった。
●問題発生後に向けた対応 かかりつけ歯科医との連携を取り、保護者ならびに患者本人には治療経過を十分に説明し、理解を得ることができた。下顎の思春期性の成長をともなう矯正治療に切り替え、上顎前歯の歯周組織を回復した。

●今回のケースでは、拡大装置により十分な蓋生改善余地を獲得し、段階的なマルチブラケット装置により、歯の急速な位置変化を避ける必要があった。歯の移動にもならない可能性がある。事前説明あるいは治療契約書等に記載されているが、実際の臨床において発生頻度が低い。すべての患者に明示する必要があるかは疑問が残るところである。
矯正学的な歯の移動は組織の一時的な虚血反応と炎症性反応をもたらす。通常の矯正力では歯髄壊死は生じないといわれ、本症例の歯髄失活は、歯の移動による



17a 17b
17c 17d

17a 17b
17c 17d

17a 17b
17c 17d

17a 17b
17c 17d

予防するためには……

今回のケースでは、拡大装置により十分な蓋生改善余地を獲得し、段階的なマルチブラケット装置により、歯の急速な位置変化を避ける必要があった。歯の移動にもならない可能性がある。事前説明あるいは治療契約書等に記載されているが、実際の臨床において発生頻度が低い。すべての患者に明示する必要があるかは疑問が残るところである。
矯正学的な歯の移動は組織の一時的な虚血反応と炎症性反応をもたらす。通常の矯正力では歯髄壊死は生じないといわれ、本症例の歯髄失活は、歯の移動による


30 前歯のアタッチメントが目立つと言われた

解説：岩田直樹

●ケース情報
患者 30歳、女性
主訴 前歯の歯並びを改善したい。歯の歯がりと歯の歪みが気になる。
診断および治療経過 骨格性の軽度前突傾向をともなう上顎歯列狭窄と診断した。骨格性の非対称性があるため、完全な正中一致は困難であるとの了解を得たうえで、できる限り一致させるためのアシスタントを用いた治療計画で治療を行うことになった。
仕事上、目立つ装置は使用したくないとの希望で、マルチスペース型矯正装置（インビザライン）を選択した。治療は1日2時間以上の治療時間が必要。1日ごとに患者自身で交換を行った。3月ごとの来院で取り合わせと装置の適合を確認した。

●問題発生状況 治療開始から12ヵ月経過後、マルチスペース型矯正装置の不正な位置による歯の移動不良を指摘された。マルチスペース型矯正装置の不正な位置による歯の移動不良を指摘された。マルチスペース型矯正装置の不正な位置による歯の移動不良を指摘された。

●今回のケースでは、拡大装置により十分な蓋生改善余地を獲得し、段階的なマルチブラケット装置により、歯の急速な位置変化を避ける必要があった。歯の移動にもならない可能性がある。事前説明あるいは治療契約書等に記載されているが、実際の臨床において発生頻度が低い。すべての患者に明示する必要があるかは疑問が残るところである。
矯正学的な歯の移動は組織の一時的な虚血反応と炎症性反応をもたらす。通常の矯正力では歯髄壊死は生じないといわれ、本症例の歯髄失活は、歯の移動による



20a 20b
20c 20d

●お名前	●貴院名
●ご住所 (〒)	
●TEL	●FAX

18 咬頭嵌合位と中心位に大きな差があった

解説：根津 崇

●ケース情報
患者 37歳、女性
主訴 矯正治療を終了したがうまく噛めない。
診断および治療経過 治療中に非抜歯による矯正治療を受けたが、咬合に大きな差があったため、咬合調整が必要となった。咬合調整が完了した。咬合調整が完了した。咬合調整が完了した。

●問題発生状況 咬合調整が完了したにもかかわらず、咬合調整が完了した。咬合調整が完了した。咬合調整が完了した。

●今回のケースでは、拡大装置により十分な蓋生改善余地を獲得し、段階的なマルチブラケット装置により、歯の急速な位置変化を避ける必要があった。歯の移動にもならない可能性がある。事前説明あるいは治療契約書等に記載されているが、実際の臨床において発生頻度が低い。すべての患者に明示する必要があるかは疑問が残るところである。
矯正学的な歯の移動は組織の一時的な虚血反応と炎症性反応をもたらす。通常の矯正力では歯髄壊死は生じないといわれ、本症例の歯髄失活は、歯の移動による



18a 18b
18c 18d

31 急速な歯の移動にもない歯髄の失活が生じた

解説：小坂竜也

●ケース情報
患者 12歳、男性
主訴 受け口、八重歯を改善したい
診断および治療経過 骨格性の下顎前突傾向をともなう上顎歯列狭窄による蓋生圧例と診断。思春期性成長前に前歯被蓋の改善を目指し、クワドヘリックスによる歯列の前方向拡大ならびに前歯部マルチブラケット装置による配列を計画。
①問題発生状況 拡大治療を開始3ヵ月後、2.1.1.2にマルチブラケットを装着。その2ヵ月後、保護者より歯髄失活の報告があった。

変色が気になるなどの指摘があり、かかりつけ歯科医を受診。患者本人はとくに自覚症状を認めなかったが、一般歯科医による診断の結果、抜歯が必要となった。
●問題発生後に向けた対応 かかりつけ歯科医との連携を取り、保護者ならびに患者本人には治療経過を十分に説明し、理解を得ることができた。下顎の思春期性の成長をともなう矯正治療に切り替え、上顎前歯の歯周組織を回復した。

●今回のケースでは、拡大装置により十分な蓋生改善余地を獲得し、段階的なマルチブラケット装置により、歯の急速な位置変化を避ける必要があった。歯の移動にもならない可能性がある。事前説明あるいは治療契約書等に記載されているが、実際の臨床において発生頻度が低い。すべての患者に明示する必要があるかは疑問が残るところである。
矯正学的な歯の移動は組織の一時的な虚血反応と炎症性反応をもたらす。通常の矯正力では歯髄壊死は生じないといわれ、本症例の歯髄失活は、歯の移動による



17a 17b
17c 17d

17a 17b
17c 17d

17a 17b
17c 17d

17a 17b
17c 17d

●お名前	●貴院名
●ご住所 (〒)	
●TEL	●FAX

見開き2ページを基本としたレイアウト

多数の写真を用いた解説で、わかりやすい！

こんな対応に気づいて！ 法律家からのアドバイス

Case 06 [反対咬合を治療したが、成長とともに再発した]
Case 07 [成長により顔面が非対称になってきた]
Case 08 [口呼吸で上顎前突と歯列狭窄]

歯科医療従事者を守る、弁護士からのアドバイスは必見！

注文書 これで解決！ 矯正トラブル マウスピース型矯正、MTM、再治療等の「困った」事例に学ぶ予防と対処法
モリタ商品コード:208040830 冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	支店・営業所